

## S11b Swift 衛星による電波銀河 NGC1275 の可視光から X 線帯域の変動解析

今里郁弥, 深沢泰司 ( 広島大学理 )

電波銀河は電波からガンマ線までの広い波長領域で放射する。この銀河の中心からはジェットが出ており母銀河を超えるスケールにまで達するが、これがどのように加速されているのか分かっていない。ジェットを真正面から見ているブレイザーはジェットが中心が強調されジェットの外側の様子を知らないが、電波銀河はこのジェットを斜めから見ているため外側の情報なども知ることができ、より詳細な情報を得ることができる。このためジェットの構造や AGN の物理を知るには電波銀河が適している。

NGC1275 は近年電波とガンマ線観測での増光が見られている電波銀河である。この天体は X 線で 2008 年から 2015 年まで長期的にガンマ線と同じように明るくなり、また、ガンマ線フレア時に X 線フレアも見られていた。前回の講演では UVOT の PSF 測光, XRT の解析で可視・紫外、X 線で明るくなっていると報告したが、UVOT では UVOTSOURCE を使わない場合キャリブレーションが必要なこと、XRT では WT モードの解析の場合銀河団放射の差引に注意を要することが分かったためこれらの領域で再解析を行った。今回のポスターでは可視・紫外と X 線の再解析の結果と Fermi/LAT の公開ライトカーブを用いてスペクトルエネルギー分布 ( SED ) の変化もふまえ、可視光から X 線帯域におけるジェット放射の寄与について議論する。